

2016年10月24日

熊本市長 大西 一史 様

DOCOMOMO Japan 代表

松隈 洋



熊本市役所花畑町別館の解体工事着手中止および庁舎保存に関する要望書

拝啓、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本会は、20世紀の建築遺産の価値を認めその保存を訴えることを目的のひとつとする国際的な非政府組織の日本支部です。熊本市が所有する熊本市役所花畑町別館を、日本近代の重要な建築遺産のひとつと認識し、本支部が昨年度に選定した「DOCOMOMO Japan 197選」のひとつにあげさせていただいております。当該建物の解体に着手されるとの報道を受けて、解体工事の中止と建物の保存を改めて要望いたします。

熊本市役所花畑町別館は、建設当時は熊本貯金支局として、1936（昭和11）年に、逓信省営繕課の設計で建設されたものであり、建物の歴史的・建築的価値が高く、日本における近代建築の代表例として、DOCOMOMO Japan や日本建築学会等から保存要望書や見解が提出されてきました。熊本市役所花畑町別館は、日本の近代化に大きな功績を果たしてきた郵政事業を代表する近代化遺産であり、熊本市街を構成する都市建築の規範として設計されたもので、熊本城下の景観を維持する建物として貴重な存在です。

また、本建物は熊本大空襲、白川大水害を耐え、その都度復興してきた熊本の都市史を語るうえでも貴重な存在です。そして今回の未曾有の震災においても増築部を除いて無傷であり、復興のシンボルになりうる記念性を有しています。

本建物の解体計画の経緯において、2002（平成14）年に熊本市により耐震設計の検討がなされていますが、これは原設計図面を未参照のうえで立案されたものであります。しかし現在では、東海大学学園史資料センターに当時逓信省営繕課技官だった山田守（後の東海大学工学部長）により原設計図面や構造仕様書が教育用に持ち込まれ、残されているのが確認されており、これを使うことにより、コスト等を含めた合理的な保存改修計画の立案が可能な状況です。

文化的意義と歴史的価値を有する貴重な熊本市役所花畑町別館ですが、解体による廃棄物の増加や今後の復興プランが流動的な状況において、ただ解体を急ぐことは、かけがえない建築遺産の取り扱いとして、後顧に憂いを残す行為であります。

この熊本市民だけでなく、国民共有の有形無形の財産である熊本市役所花畑町別館を後世に適切な形で継承されますよう、格別のご配慮を賜りたくお願い申し上げます。

敬具